
会 員 通 信

創立3周年にあたり今後への願望を込めて一考

前日本微量元素学会理事長 厚労省労働安全衛生総合研究所客員 荒川泰昭

平成22年(2010年)4月1日に「近畿亜鉛栄養治療研究会」として設立された本研究会も今年で3周年を迎えました。1つの区切りとして、先日は3周年を記念して京都リーガロイヤルホテルにて市民公開講座ならびにジャズコンサートが開かれ、また初巻よりこれまでに会誌に掲載された25編の論文を1冊にまとめた「亜鉛栄養治療」論文集(第1集)が出版されました。

研究会としての学術集会は毎年2回、2月と8月の第1土曜日に、大阪江坂の株式会社シノテスト大阪支店にて開催し、その記録は会誌「亜鉛栄養治療」(Journal of Zinc Nutritional Therapy)に掲載し、会員に配布するとともに、全国の大学医学部および医科大学図書館に寄贈し、また近畿の主要地区医師会にも寄贈し、亜鉛の栄養治療の普及に努力しております。

現在では、多くの方々のご指導、ご支援のお蔭で組織基盤も整って来ており、会員300人以上を擁する研究会に発展して来ております。臨床各科の医師のみならず、看護師、栄養士、臨床検査技師その他パラメディカルの医療職の方々、基礎医学、薬学、農学関係の研究者の方々、さらには患者さんや一般会員の方々など、特定の専門分野に関わらず幅広い方々の参加がみられ、毎回学術集会において熱心な質疑応答が行われております。

毎回の学術集会では亜鉛治療に関する幅広い分野からの興味ある講演が用意され、また役に立つ質疑応答や面白い目から鱗の関連話も多く、参加者にとって魅力ある勉強会となっております。とくに、臨床面での亜鉛治療に関しては長い間進展せず、手付かずにあった多くの問題点が1つ1つクローズアップされ、臨床医への理解を深めております。

創立3周年を迎え、設立時の趣意はおおむね達成され、形も整って来たと思いますが、本会設立の趣意をより成就させるためには、今後は健康教育の3大目的でもある知識の理解、態度の変容、行動の変容を1つ1つ具体的に達成させていくべきであろうと考えます。すなわち、亜鉛の重要性や必要性についての正しい知識をさらに広く普及させ理解を深めさせること(知識の理解)、理解した正しい知識に基づき臨床や日常生活の場で亜鉛に関する知識を広めるための努力をさせること(態度の変容)、そして正しい知識が臨床や日常生活の場で実践されること(行動の変容)を達成させるべく努力していくべきであろうと考えます。その中でもとくに知識を行動の変容に結びつけるための努力が最も必要であり、健康教育の究極の目的であると考えます。

本研究会からの地道な発信がやがては臨床領域とくに臨床医への啓蒙や教育に繋がり、亜鉛の重要性や必要性について臨床医の意識や認識を変えていくものと確信しております。また、本会への参加による交流が臨床面における亜鉛の栄養治療の普及を拡大させていくものと思います。

研究会の運営に関しては、予算の関係もあり、年2回の学術集会ならびに会誌の発行は会の規模から考えて十分であり、これを維持出来れば十分だと考えます。学術集会では常に最新情報をテーマに講師を招聘し参加者の知識を深め、講演者に原稿を依頼する形で会誌を発行し最新情報を伝えるという従来どおりの方法が維持できれば十分だと考えます。更に欲を申せば、会誌への積極的な論文投稿や臨床現

場から派生する種々の問題や症例の掲載なども奨励し日常の実地診療や健康維持増進に役に立つようになれば、亜鉛の栄養治療の普及をより拡大させていくことが出来るのではないかと考えます。

研究会の構成に関しては、本会はあくまでも臨床的アプローチを中心とした会であることが最大の特徴であり、会のアイデンティティでもあります。したがって、本会においてはあくまでも臨床を主とし、基礎を従としたバランスの維持が重要だと考えます。

研究会として取り組むべきテーマに関しては、社会的貢献をも考慮すべきであり、臨床や日常生活において派生する種々の亜鉛に関する問題を取り上げ、その研究成果を公表していければと考えます。現在、日本における血清亜鉛の基準値設定に関する問題点を取り上げ、血清亜鉛基準値策定委員会を設け基準値の設定を検討中ではありますが、これもその1つです。

その他の企画運営に関しても今までは世話人代表である宮田學先生が全て準備されて来られましたが、今後は学術集会におけるテーマや講師候補の選出など学術企画についても運営実行委員会に当たる世話人会が積極的に提案し検討し企画運営するようにして、宮田先生の負担を出来るだけ軽減させる方向に向けられればと考えます。そして、将来は自立した研究会へと成熟して行ってほしいと願っております。

本研究会は主として亜鉛の臨床面での重要性を提唱し、亜鉛の栄養・治療の普及を目指し、臨床医とくに実地医家に亜鉛治療の必要性を認識していただきたく臨床分野への啓蒙、教育を熱望して設立された会です。今年の2020年オリンピック東京招致のプレゼンテーションのメインテーマとして主張されましたように、本会においても設立以来過去3年間に築き上げて来た遺産 Legacy を将来へ継承しながら更に向上発展させていただきたいと思えます。僥越ながら、創立3周年にあたり今後への願望を込めて一考させていただきました。最後に、本研究会の益々の発展と会員の皆様の益々の発展を祈念いたします。

亜鉛栄養治療

第4巻 第1号 平成25年

Journal of Zinc Nutritional Therapy

Vol.4 No.1 2013



近畿亜鉛栄養治療研究会